

平成29年度 学校評価 勇志国際高等学校

勇志の心	国を愛し 郷土を愛し 人を愛する
教育方針	親孝行する青少年たれ 志ある人間たれ 誇りある日本人たれ 役に立つ国民たれ 尊敬される国際人たれ
指導方針	生徒の長所を認め長所を伸ばすことを、生徒指導に当たっての指針とする。短所を指摘し矯正する方法は採用しない。

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	具体的方策	達成状況	評価	次年度への改善点
学習指導 1 道徳教育の確立	①科目として教育課程に入れている。 「高校生のための道徳 この世にダメな人間なんて一人もない!!」を道徳教科書として使用している。	①開校以来、校長自ら道徳の授業を行っている。充実した道徳教育ができています。	A	日本人としての誇りを持つ生徒を育成するために、日本の正しい歴史・道徳教育を今後も行っていく。
2 スクーリングの充実	②離島である御所浦での集中スクーリングで「非日常」を体験させる。 毎年参加者へ参加前と参加後にアンケートを実施している。 平成29年度回答者611名 平成29年度は10代対象スクーリングを15回、社会人スクーリングを	②スクーリングを通して生徒の成長が見られた。アンケート結果スクーリングに対する心境変化 【参加前】 とても楽しみ 8.2% 楽しみ 17.0% 特にない 22.6%	A	次年度も怪我、事故のないスクーリングをめざす。 アンケート結果ではスクーリング参加後は88.8%が楽しいと感じているが、参加前は少し嫌、参加したくないが52.2%を占める。 参加すれば楽しさを実感できるので、参

	<p>3回、計18回の集中スクーリングを実施した。</p>	<p>少し嫌 23.6% 参加したくない 28.6% 【参加後】 とても楽しかった 43.0% 楽しかった 29.8% 少し楽しかった 16.0% 特にない 7.7% やはり嫌 3.4%</p>	<p>加前の不安を取り除くことが必要。 初めて参加する生徒には、事前にスクーリングに関する情報を提供し、不安を取り除く。</p>
<p>3 ネット活用の充実</p>	<p>③無料で受講できるネットライブ授業を配信している。 i Land (ネット登校システム) も実施している。 各種ネット活用の有効利用を図る。</p>	<p>③平成29年度ネット授業の延べ参加人数は2607名(平成28年度は1544名)である。 i Land の延べ参加人数は876名(平成28年度は365名)である。 ネットで面談、ガイダンスも実施した。</p>	<p>B ネット授業は1人でも多くの生徒が参加するように授業内容や時間割等、常に創意工夫を重ねる。 新しいネット活用を企画し提供する。</p>
<p>4 各種検定受験指導</p>	<p>④科目として漢字検定、英語検定、パソコン検定を教育課程に入れている。 各種検定合格を目標設定し、受験を勧める。 ビジネスコースの受講者を増やし、簿記検定を合格させる。</p>	<p>④平成29年度の各種検定は受験者518名、合格者293名である。(平成28年度は受験者428名、合格者266名) 上位級の合格 英語検定2級、漢字検定2級、簿記検定2級、秘書検定2級、ワープロ検定1級、2級、情報処理技能検定1級、2級、パソコン検定2級、プレゼンテ</p>	<p>B 検定に対する意識を高め、全体の受験者を増やし、合格率をアップさせる。 上位級の合格者を増やす。</p>

5 弁論大会	⑤平成28年度までは熊本学習センターのみ開催していたが、平成29年度は第1回全国弁論大会として開催した。	ーション検定2級、パソコンスピード検定2級、スピード検定(英字)2級 ⑤天草本校、熊本、福岡、千葉、東京の5ヶ所をネット中継し、リアルタイムの弁論大会を実施した。本選は11人の弁士が発表した。	A	発表した生徒だけでなく、視聴した生徒にも成長の場となった。次年度は更なるレベルアップを図る。
キャリア教育				
1 進路指導の充実	①学年に応じた進路ガイダンス等、継続的な進路指導を行う。 進学希望者には進学コースで1, 2年生から受験指導を行う。	①平成29年度の進学希望者の決定率は76%、就職希望者の決定率は80%、進路決定率は78%である。 進学コースからの大学合格は徐々に実績を出している。	B	国公立大学、上位私立大学の現役合格実績を出す。 指定校推薦を有効に使う。 進路資料として「卒業生による学校・職業紹介」を発行する。
2 職業観の育成	②礼儀・マナー講座を実施している。 インターンシップを奨励する。	②通信制のため、通学コース以外の遠隔地生徒に対し継続した指導が難しい。	B	就職はあくまでも正雇用をめざす。 インターンシップ参加者を増やす。 遠隔地生徒にはネットを活用して出来る指導を行う。
生徒指導				
1 いじめ防止	①【いじめ対応に関する基本原則】 ・いじめを絶対許さない学校 ・教職員はいじめを未然に防ぐ深い洞察力と継続した行動力を持つ ・生徒はいじめを見たら止める勇気を持つ	①いじめがあった場合、全教職員で情報を共有し、一丸となって継続した指導を行う。 いじめの実態把握と防止のためにアンケートを実施。 ネットいじめにも注意していく。	A	いじめに対しては全教職員が毅然と対応し、いじめを許さない校風を構築する。 情報共有システムの一層の充実を図る。

2 SNS指導	②ソーシャルメディアガイドラインに沿って、定期的に注意を呼びかける。 業者と提携し、検索・監視を実施。	②業者からの報告等で、不適切な書き込みが発覚した場合、削除及び今後への指導を行う。	A	不適切な書き込み等から生徒を守るために、次年度も業者と提携する。
3 親孝行の奨励	③「親孝行する青少年たれ」を実践するため、平成26年度から「親孝行コンクール」を実施している。	③平成29年度は「第4回親孝行・絆作文コンクール」を実施し、952名の応募があった。大賞、奨励賞、努力賞で表彰した。	A	次年度は1000名以上の応募をめざす。 親孝行する生徒を育成する。
安全管理	集中スクーリングは宿泊を伴うため、常に生徒の病気、怪我、事故に注意する。 本校教職員は地域の消防団に入っている。	開校以来、大きな怪我、事故のないスクーリングが継続できている。 毎日の清掃や敷地内の危険物の除去など環境整備も怠らない。 避難訓練を実施した。	A	災害はいつ起きるかわからない。スクーリング中に起きることも有り得る。油断することなく、生徒の安全を第一に次年度も無事故をめざす。 平常時から災害等に備えた役割分担を明確にしておく。
情報提供	学校通信「ポプラ通信」を毎月発行し、家庭に郵送している。 HPでも随時、情報提供を行っている。 一斉メール配信も行っている。	ポプラ通信を毎月楽しみにしている生徒、保護者も多い。 HPの迅速な更新を行なっている。 アドレス等の生徒個人情報徹底管理している。	A	次年度も引き続き各種情報提供をしていく。
地域との連携	「絆の日」では教職員・生徒と地域の皆様と共に清掃活動を行っている。	東日本大震災以降、毎月11日を中心に「絆の日」として清掃活動を行っ	A	今まで以上に地域の皆様に対する感謝の念を忘れず、取り組んでいく。

	地域の各種行事へ参加している。	ている。既に68回の活動を終えた。熊本地震以降、絆が強くなった。		
教職員研修	<p>校長による勉強会を毎月実施している。研修旅行も実施している。</p> <p>【勇志国際高校の教職員の心得】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育者は、聖職者である。 2 教育者は、自らを鍛錬し、生徒に対しては長所を伸ばす指導法を基本とする。 3 教育者は、自己責任を行動原理とする。 4 教育者は、学校の健全な発展に努める。 5 教育者は、教育は国家百年の大計と心得る。 6 教育者は、生徒の教育を本位として行動する。 7 教育者は、教育を通して利他の精神に基づく文化を創造する。 8 教育者は、国を愛し、郷土を愛し、人を愛する。 9 教育者は、正しい歴史観と国家観が教育の基本と認識する。 10 教育者は、問題行動に対しては、毅然とした態度で適切な指導を行う。 	<p>教職員の意識が確実に向上している。勉強会はネット会議システムも利用している。</p> <p>平成29年度の研修旅行は防衛省を見学し、多くのことを学んだ。</p> <p>全教職員が心得を正しく理解し、実践できている。</p>	A	<p>次年度も同様に勉強会を実施する。</p> <p>全教職員が使命と責任を果たせるように努力を続ける。</p>

